

第6回中海会議【概要】

H27.11.2 ホテル白鳥（松江市）

議事（部会・ワーキングからの報告事項）

（1）中海湖岸堤等整備に係る調整会議（説明者：国土交通省出雲河川事務所）

【意見等】

■松江市長

- ・大橋川の拡幅築堤工事の本格的な実施、そのための十分な予算措置についてお願いしたい。
- ・中海沿岸部については、短期だけでなく中期の整備箇所もあるので、これについても早期に事業着手あるいは完了ということをお願いしたい。
- ・中海会議の範囲ではないが、宍道湖についても護岸堤の整備をぜひ早期に事業着手ができるように、関係者との協議を進めていただきたい。

■鳥取県知事

- ・短期整備箇所について、今年度、来年度でかなり終了するところがあり、感謝を申し上げたい。
- ・渡漁港の推進と、米子港の短中期整備箇所について、新年度で確実に事業に着手していただけるようお願いを申し上げたい。
- ・大橋川の流量が増えて、それが下流域に影響が及ばないようにするためには、下流域側の堤防整備の優先度を上げて、完成してもらわなければならないということなので、ぜひ今後の進捗管理をお願いしたい。

■中国地方整備局長

- ・大橋川の改修、湖岸堤のことについては、短期のところを早期に完成させることはもちろんだが、短中期についてもできるだけ早くということは、この会議の場でずっと言われてきたと引き継ぎを受けている。
- ・我々もきっちりと予算を確保したり、あるいは地元と鋭意調整をしたりということを進めてまいりたいので、ぜひ御協力をよろしくをお願いしたい。

（2）中海の水質及び流動会議（説明者：島根県環境生活部環境政策課）

【意見等】

■米子市長

- ・流動発生装置の実証実験について、いい結果が出ることを期待している。
- ・米子湾の水質、特に透明度については、最近改善傾向が見られるということで、私どももうれしく思っているが、また、米子湾を会場とする中海オープンウォータースイムなども行われているが、他の地点と比較すると、まだまだよい水質とは言えない状況なので、平成25年度からの米子湾の覆砂事業については、引き続き推進していただき、一層米子湾の環境修復が図られるよう、よろしくをお願いしたい。
- ・中海会議ではこれまでに実施されてきた水質改善策についての検証、評価を行って、さらに効果的な水質改善策を講じていく必要があると思っているので、中海環境モニタリング検討ワーキンググループについては大いに期待している。
- ・このワーキンググループでは、中海の水質汚濁と関連する要素として、気象、湖内負荷、流入負荷及び流動等の関連性の分析がその所掌事務となっているので、森山堤防の一部開削の影響について分析していただき、その検証、評価をしていただくようお願いしたい。

■島根県環境政策課長

- ・中海の水質への影響の要素というのは、気象とか湖内負荷とか流入負荷とか流動とかいろんな要因が複雑に関連していて、開削も一つの事実であると思うが、現在、平成21年度前後の水質に特段

の変化の傾向が見られないということから、まずはワーキングにおいて、専門家の意見も踏まえながら、より客観的に中海の水質の状況が把握できるように、モニタリングを継続していきたいと考えている。

■米子市長

- ・その関連であるが、森山堤防の一部開削の影響についてもあわせて分析していただきたいと思っているので、よろしく願います。

■松江市長

- ・ワーキンググループを設置していただいたことは大変な前進であろうと思うが、いつまでもモニタリングばかりやってもしょうがないことなので、ある程度スケジュールを決めて、何かメカニズムの解明だとか、ある程度の知見が得られれば、そういったものを大いに発表し、それに対する対策をどんどん積極的にやるようなことをぜひお願いをしたい。
- ・覆砂とか浅場造成というようなお話があったが、これによって水質改善につながるということが明らかになっているような事業については、ぜひこれからも積極的に実施をしてもらいたい。
- ・宍道湖、あるいは堀川の海藻を定期的に刈り取っていくため、自動的に海藻を刈り取って船に積み込むことができる藻刈り船を、昨年度つくって運転しているが、ぜひ中海においても、積極的に活用していただくことについて、よろしく願いたい。

■安来市長

- ・米子湾のヘドロをしゅんせつして、安来の島田工区に埋めた。そして、まだ今いろいろな実験がされている。覆砂もこれからということであるが、この原因が、今まで数十年堆積したヘドロで富栄養化になったのか、あるいは今もどんどん流入負荷が続いていることが原因でなっているのか、そしてまた、今、安来湾もヘドロ除去をしないで覆砂しているが、その覆砂の効果というのがどれだけあるのか、何か場当たりのぼんぼんやられてるような感じがしてならないが、きちんと結果が検証されてそういうことをされているのか、もうちょっと大きな原因というのがつかめないのかどうか、その辺のところをお聞かせいただきたい。

■鳥取県知事

- ・各市長の意見に賛同する。ぜひ前向きによく分析しながら、やるべきことはきちんとやっていく体制を作っていたらと思う。
- ・先ほどのモニタリングについて、開削の影響がよくわからないが、貧酸素水の問題も出てきているのではないかなというような話もあった。よく分析をして進めていただくことは大切なこと。
- ・その中で、効果が出てきたものをきちんとやっていく、覆砂がよければそれを検証していただいて、積極的にやっていくという体制が必要であるが、必ずしも、国の事業スキームなどと合っているかどうかという点で、うまく回り切れてないところもあると思う。浅場造成については親水護岸のような考え方で事業が進みつつあるが、中海の場合、農地をつくろうとしてくぼ地をつくった。そうしたところは覆砂をするのか、あるいは埋めるのか、いろんな手法が考えられるかもしれないが、河川事業などとの関連で、今後検討し得るのかどうか、この辺も知恵を出していただくとありがたい。
- ・藻場刈りが昔はなされていて、人為的にリンや窒素を湖の外へ追い出していたが、これが効果的にできるということであれば、いわゆる循環農法にも目を向けるようなことがあってもいいのではないかなと思う。鳥取県側ではお米づくりに利用されて、販路もでき始めているし、境港市では給食で出すということも始まっている。新しい農林水産業のあり方として、この辺も支援のスキームを考えていただくと進むのではないかなと思う。
- ・松江市長から御指摘のあった藻刈り船も、ぜひ中海側でも活用してみるよう、両県あるいは農水省で調整していただければありがたいと思う。

■中国地方整備局長

- ・浅場の造成あるいは覆砂は、自然の浄化能力を高めるという意味で、間違いなく効果があるものなので、今、盛んに事業の実施をしているところである。そういったものを引き続きやっていくのは、間違いのない方向だと思うが、先ほど安来市長からもあったように、既にたまってるとともに流入負荷量があるわけで、現状の河川環境を改善していく事業だけで、どの程度効果が上がってくるのかということもまた問題としてある。
- ・確実に事業の効果が上がるものについては引き続きやっていくのと並行して、どういったところにピンポイントの対策をとるのが一番効果的なのかという分析を並行してやっていくことなんだろうと思う。
- ・私どもも河川管理者としてきちんと対応していきたいと思うので、これこそ一致協力して、ワーキングのような場を使って分析をいただき、その中で、河川の事業のメニューの中でそれを取り入れるものについてはどんどん取り入れていくという方向だと思う。

■島根県環境政策課長

- ・流入負荷対策と湖内の対策の2つをしっかりとやっていこうと考えている。
- ・22年度から汚濁メカニズムの解明について専門家のワーキングをつくって取り組んでおり、その中で、底質の調査、底の部分の調査として、湖底にたまるリンの蓄積の検討というようなことをしてきた。そうした調査ばかりではなく、対策として、鉄板の電極を農集の処理槽に設置して、溶けた鉄がリンと結合して沈殿する性質を利用して、汚泥としてリンを除去する実証実験もやってきたところ。これは、25年度から今年度まで、島大の先生にお願いしてやっており、こういう対策も具体的な対策として、これからも考えていければと思っている。

■安来市長

- ・一般の市民から見ると、あれだけ大量にヘドロを取って、しかも水洗化がどんどん進んでいるのに、なおかつきれいにならないのかというのが、一般の市民感情。

■中国四国農政局長

- ・平井知事からお話いただいた、農林水産業の成長産業化を目指して、いろいろな地域にあるものを有効に活用して活性化につなげていくことについて、そういうヒントを地域からいただいて、それを具体的に実現していくということに取り組んでいるので、今お話があったことについても、今後いろいろな形で勉強させていただきたいと思っている。

■島根県知事

- ・事務局の説明等に対し、周辺の米子市、松江市、安来市の市長から御意見があった。また、国交省、島根県、鳥取県、一緒になって、原因の究明だとか対策の効果だとか検討されるようであるので、幹事会、水質部会、そして新たにできたワーキンググループ等において、御要望あるいは注文の趣旨もよく踏まえながら、検討、研究をしていただき、来年の会議で報告できるようにしていただきたい。

(3) 中海沿岸農地排水不良ワーキンググループ (説明者：米子市経済部農林課)

【意見等】

特になし

(4) 中海の利活用に関するワーキンググループ (説明者：鳥取県元気づくり総本部)

【意見等】

■安来市長

- ・昨日、なかうみマラソン大会を行った。全国、北海道から九州まで5,000人ほどの参加で中海のきれいなところを走っていただいた。以前からみると、少しずつではあるが中海がよくなっているなどと思っている。

- ・安来の飯梨川河口でのカイトサーフィン、ウインドサーフィン、合わせて年間、延べ3,000人ぐらい全国から来る。今、トイレや駐車場を少しずつ整備しようとしている。
- ・島田干拓地に30ヘクタールの中海ふれあい公園を、これから3年ほどで整備したいと思っている。野球場やサッカー場、それと子供たちの遊び場をかなり広くとるので、ぜひ両県の皆さんに利用していただきたい。

■境港市副市長

- ・境港市でも、国交省さんとの関連でミズベリングプロジェクトにも参画をさせていただいている。
- ・また、夕日ヶ丘地区においてコンサートを定期的に行っており、中海を見ながら、夕日を見ながら音楽を楽しむ、そういう中海のワイズユース活動を行っている。

■松江市長

- ・中海で第1回の中海・宍道湖レガッタを開催しようとしている。場所は、昔、くにびき国体のボートの競技会場になったところの一部。この場所ではアサリやアカガイの養殖が今、盛んに行われているところなので、そういった産業振興と親水性といったことを結びつけて行うイベントとして、将来育てていければと思っている。
- ・中海・宍道湖地域で生態系ネットワークによる大型水鳥類と共に生きる流域づくりという検討協議会が先般発足した。水鳥が来るところというのは、水質のいいところと関連しているということがあるので、水辺環境の保全と、また、たくさんの観光客がそれによって来ていただくと経済の活性化にもつながるので、今後、両県の御支援をよろしくお願ひしたい。

■鳥取県知事

- ・米子鬼太郎空港に、毎週香港からチャーター便が来ており、うまくいけば定期便化するかもしれない。こういう会議をやると、中海はまだまだ汚れがあってという話になるが、安来の近藤市長がおっしゃったとおり、そうは言ってもきれいで、それを考えると、十分観光地としてやれる。ワイズユースとして観光業をもっと強化をしていくと、いい恵みが出てくるのではないかなと思う。
- ・今、山陰両県のDMOをやろうとしているし、また市長会のほうでもそうした動きをされているので、これが大きく変わる原動力になるのではないかなと思う。いろいろと出てきたさまざまなアイテムをつなぎ合わせて、ワイズユースをもっと飛躍的に進めることを、ラムサール条約10周年の年であるので、宍道湖・中海両方重ねてやっていく、そういう体制が必要ではないかなと思う。
- ・整備したサイクリングロードは観光資源としても有効になり得る。中海会議では周辺の自治体、国の関係者もいらっしゃるの、情報発信やツアー造成等も含めて取り組んでいただけるとありがたい。

■島根県知事

- ・中海のワイズユースということについては、いろんな取り組みがなされてきている。中海の藻入りクッキー、サルボウガイやアサリの養殖、スポーツではマラソン、レガッタ、サイクリング。大型水鳥が集まる珍しいところであるし、観光資源が中海・宍道湖、あるいは大山圏域にあるわけであり、こういう点では周辺5市、鳥取、島根でもいろんなところで協力関係が強化されつつある。こういう面で関係市、県、一緒になって努力をしていきたい。
- ・本日出された意見、要望等を踏まえ、今後、幹事会あるいは部会あるいはワーキンググループなどで検討を進めていただき、来年の会合で報告をお願いしたい。